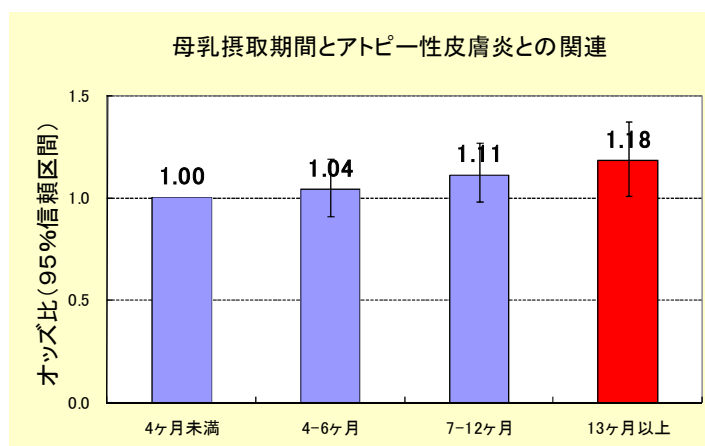


母乳摂取とアレルギー疾患有症率との関連

背景：母乳摂取が小児アレルギー疾患に予防的であるのかどうか未だわかりません。前向きコホート研究のメタ・アナライシスでは予防的な結果が得られていますが、日本の過去の横断研究では、母乳摂取と喘息、アトピー性皮膚炎との間に正の関連が報告されています。

方法：琉球小児健康調査の参加者のうち、解析に用いた要因のデータ欠損のない24,077名を対象としました。ISAACの定義に従い、過去1年に喘鳴、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻結膜炎の症状のある場合、各アレルギー疾患有りとしました。年齢、性別、兄弟数、家庭内喫煙、両親の喘息、アトピー性皮膚炎またはアレルギー性鼻炎の既往歴、両親の教育歴を交絡因子として補正しました。

結果：人工乳の摂取状況に関わらず母乳摂取期間を4ヶ月未満、4-6ヶ月、7-12ヶ月及び13ヶ月以上の4群に分けて解析をしたところ、4ヶ月未満を基準として13ヶ月以上におけるアトピー性皮膚炎のオッズ比



は1.18と統計学的に有意となりました。その正の関連は両親ともアレルギーの既往のない群でより強くなりました。母乳摂取期間と喘鳴及びアレルギー性鼻結膜炎との間に関連はありませんでした。生後4ヶ月未満の栄養状況を人工乳のみ、人工乳と母乳の混合乳及び母乳のみの3群に分けて解析したところ、人工乳のみを基準として、混合乳、母乳のみにおけるアトピー性皮膚炎のオッズ比はそれぞれ1.08と1.19でしたが統計学的に有意ではありませんでした。ただし、オッズ比が高くなる傾向性のP値は統計学的に有意でした。人工乳摂取開始時期と各アレルギー疾患有症率との間に関連はありませんでした。

結論：長期母乳摂取とアトピー性皮膚炎との間に正の関連があるのかもしれない。アトピー故に母乳を与え続けた可能性もあり、さらなる調査が必要です。

出典： Miyake Y, Arakawa M, Tanaka K, Sasaki S, Ohya Y. Cross-sectional study of allergic disorders associated with breastfeeding in Japan: The Ryukyus Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2007; 18: 433-440.